



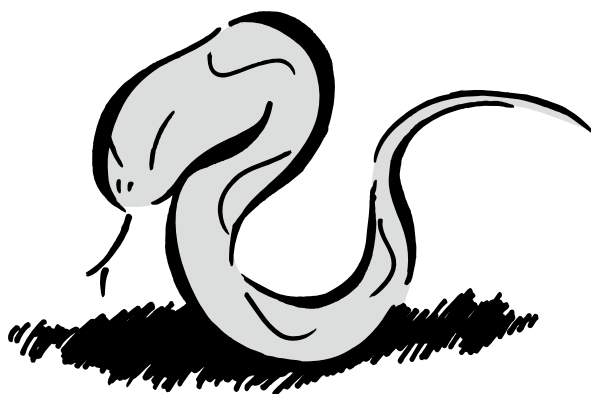
シェイクハンド

第37号
H25.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



迎春

新年のご挨拶

静岡県訪問看護ステーション協議会
会長代行 上野桂子

明けましておめでとうございます。昨年の報酬改定は、訪問看護ステーションにとって追い風となり皆様は多忙を極めた年だった事と推察いたします。県内の訪問看護ステーション数も146カ所(休止7ヶ所含む、12/1現在)となり在宅療養者を支える仲間が増えたことを嬉しく思います。会員の皆様と力を併せて地域包括ケアの拠点としての役割と機能を果たせるよう頑張っていきたいと思います。本年もよろしくお願い致します。



副会長 篠原 彰



新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。静岡県医師会では、平成23年度より実施している在宅医療推進セン

ター事業の一環として「訪問看護の推進」を掲げています。在宅医療を担う医師の片腕として、訪問看護師の確保については質量ともに不可欠であることは言うまでもありません。昨今は、郡市医師会の先生方にも、多職種協働による在宅医療の推進についての機運が芽生えてきたことは喜ばしい限りです。今年も更なる前進を目指したいと思っております。

副会長 大塚 みち子



新年 おめでとうございます。

昨年は、協議会の事務所の移転や訪問看護が制度化されて20年が経つなど節目の年となりました。施設から在宅へ医療の流れは加速度的に進んでおり、他職種との協働を模索しながら新たな訪問看護ステーションの取り組みがはじまっています。訪問看護の役割をあらためて考えたいと思います。



「中部支部研修の報告」

中部支部 高 井 由美子

1. テーマ：「在宅療養を支えていくための
連携を目指して」
2. 方 法：シンポジウム
3. コーディネーター：三浦 さえ子氏
(訪問看護ステーション清水)
4. シンポジスト：4名
5. 開催日時：平成24年8月18日（土）
18：30～20：30
6. 開催場所：シズウェル103会議室
7. 参 加 者：45名

数年前より当協議会では、ステーション間そして看・看連携を重点目標として取り組みを行ってきましたが、今年は、「スムーズな在宅への移行を図るために、看・看並びに他職種との連携の推進」という更に具体的な目標となり、その目標に沿って他職種が、連携に向けてどのような取り組みを行っているかを知ることを目的に、シンポジウムを開催いたしました。

各シンポジストの発表を短くまとめたものを下記にお示しいたします。

静岡県立総合病院 永嶋 智香氏：

連携を図るためには、「病棟看護師への働きかけが鍵」だと考え、病棟看護師の、退院に向けての連携の必要性を意識づけるための3年前からの取り組みや、それによる変化、そしてより良い連携には、顔の見える関係が大切であることを発表された。

田村内科居宅介護支援事業所 渡辺 ひとみ氏：

介護支援専門員として日ごろ連携として心がけてきたエピソードと、介護支援専門員の立場から、私たち看護師に対する思いを発表。看護師に対しての思いは、退院前カンファレンスの参加で、医療用語



を並べられ、委縮した気持ちになったことや、それを克服するために、訪問看護サービスを導入した際、なるべく同行するよう努力し、次第に、「看護師は怖くない」ことがわかり、積極的にわからないことなども聞けるようになっていった話など、本音の部分も発表された。

訪問看護ステーションあみ 稲葉 恵美氏：

比較的静岡市の奥地に位置しているステーションであり、総合病院との連携の現状課題を発表される。訪問エリアが更に山間地域までであるため、信号がなくても片道40分はかかる大変さや、事例として崖の上の緊急時対応の様子を話された。携帯もつながらず、救急要請は、つながるエリアまで行き、崖の上だったため、レスキュー隊が出動したというエピソードであった。また、退院後の訪問看護の導入の場合、医療情報が不足して、全くわからないまま利用開始となったり、必要物品のないままの在宅療養だったため、調達に大変だったエピソードや、僻地の方の場合、救急搬送の受け入れ先の困難さなど、前もって話し合っておくことの必要性や大切さについて発表された。



豊橋創造大学 蒔田 寛子氏：

「専門職連携の推進の背景と独居療養者支援における他職種連携」というテーマで、連携の定義をはじめに、事例を通しての連携の重要性や専門職間連携教育と他職種連携への提言として、在宅療養者支援での看護職の役割は、対象者を包括的に把握し、今後を予測した支援と他職種への助言の必要であると発表された。

以上が、発表内容です。そしてこの後、在宅医療推進センター事業として現在取り組んでいる、退院時共同指導にも活用できる入退院連携シートの試用についての説明と報告をいたしました。

この研修を通して、まず、それぞれの立場からの

現状を皆で共有することができたことが一つの成果ではないかと感じました。今後として、他職種が参加する会を設け、顔が見える関係づくりをすることで、共通の課題を認識し、解決することができ、更なる他職種から多職種への連携強化につながることを確信する機会でもありました。来年には、第2回目の災害時対策についての研修が控えていますが、やはり、それも連携あつての対策になります。今後も、継続して取り組んでいきたいと考えています。フットワークの良さがモットーでもある訪問看護師の私たちから、同職→他職種→多職種、そして地域に向けて、発信していくことが大きな役割でもあると感じ、今後も努力していきたいと思っています。

東部支部研修会報告

東部支部 小 野 英 代

1. テー マ：人材育成のための管理者研修
「訪問看護師を育てる」
2. 講 師：オフィス萩原代表理事
萩原正子氏
3. 開催日時：平成24年10月13日（土）
13時～16時
4. 会 場：沼津文化センター
5. 参 加 者：48名

今回の研修は東部地区での開催でしたが、県下全域の訪問看護ステーション管理者を対象に参加を募り、多くの管理者が参加して下さいました。

訪問看護の大きな悩みは人材不足。ひとりでの訪問、緊急電話の携帯当番などマイナスイメージが強く、2年未満の早期離職が多いという調査結果もされており、訪問看護ステーションの運営・経営上の壁となっています。

講義では、教育の必要性和現状、教育の基本的な考え方などを具体的に教えていただきました。グループワークで職員教育の現状を話し合い、他のス

テーションの管理者もそれぞれに悩みを抱え、試行錯誤していることを知ることができ、現状の振り返り、今後の課題を見つけることができました。

訪問看護は、実施と報酬と収入との関係をスタッフ全員が理解していることが必須で、また実施される看護の質の担保も求められているため教育が必要であり、教育にはお金と時間が必要であることも教えていただきました。「目に見える形での教育」として、OJTシートの活用や訪問看護の質評価・教育ラダーによる評価などの指標を用いること、評価結果をもとに指導し、定期的に再評価を行い、学習の機会を設けることなどの具体的な方法は、すぐに活用でき参考になることばかりでした。

「良い人材はステーションの経営の安定化の鍵」と教えていただきました。

人材確保が困難な現状はありますが、現任の訪問看護師の意識と意欲を高め、スタッフ一同と新たに仲間になる新人看護師が、訪問看護の魅力に心が満たされ、「良い人材」となれるよう実践につなげていきたいと思っています。



ステーション紹介

東部 訪問看護ステーションゆかわ

牛島 一成

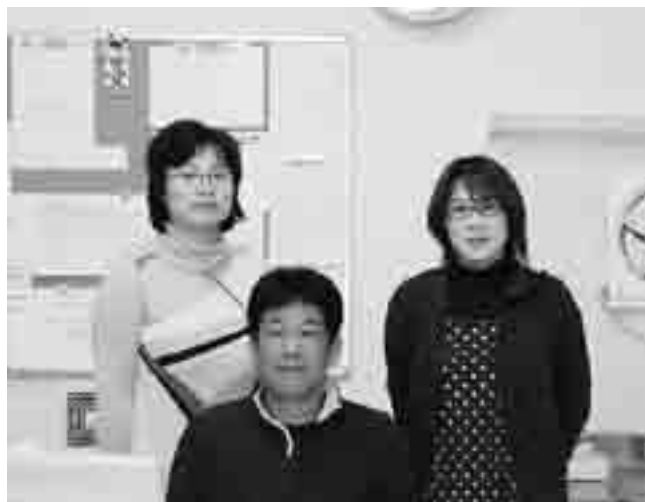
新年明けましておめでとうございます。

私たちのステーションは、(公財)復康会 沼津中央病院を母体とし、サテライトクリニック(元 伊東中央クリニック、現在 あたみ中央クリニックに移転)内での訪問部門から、平成15年2月に「訪問看護ステーションゆかわ」として独立開所しました。今年で10周年を迎える事ができました。常勤看護師3名、非常勤事務1名。伊東駅前に位置し海・山・川・温泉と風光明媚な一帯で、市内では毎月のようにイベントやお祭りなど行われ、観光客で賑わいます。しかしその反面、車で移動する私たちにとっては、渋滞に悩まされることもあります…。

全国でもめずらしく、医療保険のみで主に精神疾患の方の訪問を行っています。

新障害プランが策定され、精神疾患により入院している患者の7万2千人が“社会的入院”と言われ、受け入れ条件が整えば退院できるといわれています。その為、長期入院患者の地域移行支援事業や精神科救急医療など整備が進みました。しかし、およそ10年が経過しましたが、その数字は殆ど変わってないようです。

新たな入院をつくらず地域に定着のために、治療中断者・なかなか医療につながらない未治療患者を対象とした“精神障害者アウトリーチ支援事業”がはじまりました。今後一層地域での訪問看護ステーションの役割は大きくなると思われます。



このストレス社会と言われる現在、精神疾患には誰でも罹るといわれています。しかし早期治療、継続治療によりその殆どの症状が寛解また治癒します。しかし慢性的な経過をとる場合もあり、長期的な治療を強いられ、その為服薬の中断や症状の悪化などにより治療が中断してしまう場合もあります。そこで再発予防が重要となります。

私たちステーションでは、行政機関や病院、診療所、地域生活活動支援センターや作業所などと常に連携をとり、地域で安定した継続的な療養生活を支援し、その人らしい生活が送れるよう、日々寄り添い、共に行動しながら利用者の自己実現に向け日々援助しています。

つぎは「訪問看護ステーションそよかぜ」さんです。

中部 訪問看護ステーション あおば

塚本 恵

藤枝市青葉町にあります「訪問看護ステーション あおば」です。平成14年に錦野クリニックに併設されたステーションとして、デイサービス「ゆめ広場」の2階に開設、今年11年目を迎えました。本年度は開設から10年間勤めた管理者が定年退職に伴い交代となりまして、現在職員は常勤2名、非常勤1名、事務員1名、管理者を含めて2名が訪問看護の

経験1年未満というフレッシュなチームで活動しています。

訪問範囲は藤枝市と旧大井川町、対象患者さんは0歳児から高齢者までと幅広く、医療保険と介護保険の割合は1:3、併設のクリニックがあることから、半数はクリニック、半数は地域の総合病院、開業医の患者さんとなっています。



最近はがん末期や高齢者の看取りも多くなってきており、24時間緊急時対応を少人数のスタッフで行っていくことは大変厳しい労働環境ではありますが、やり甲斐と励ましの言葉に支えられなんとか継続しています。今後はスタッフを増員、労働条件を改善し、働きやすい体制を作り、利用者さんが安心して療養できるような環境を作っていきたいと思っています。

看護という専門性を活かしながら、医師との橋渡し役であり、患者さんだけでなく家族の相談役でもあり、気軽に頼っていただける存在であるよう、24時間体制できめ細かな対応を心掛けています。他職種やステーション相互の連携を大切に、地域に愛されるステーションを目指して奮闘中です。どうぞ



宜しくお願い致します。

次は「訪問看護ステーション アポロン」さんです。

西部 訪問看護ステーション トータルケアひかり

杉村 真由美

こんにちは、平成24年4月に袋井市にオープンしました『訪問看護ステーショントータルケアひかり』です。

同じ建物内に居宅介護支援事業所があり、10月には訪問介護事業所を開所し、多職種でのトータルサポートを目指しています。必要な場合は即日対応し、利用者様が住み慣れた家で、穏やかに、笑顔のある時間を過ごし、周りのご家族様も心穏やかに同じ時を過ごせるよう不安の種は早めに摘むことで、迅速で細やかなケアの提供を心掛けています。

短期間で大きくADLが低下し、介護申請に至った方や長く療養されたご苦勞を抱えた方、生まれた時から医療を必要とする方など、その方その方に大切な関わりや歴史があることを日々の業務の中で感じます。1対1の医療サービスを提供することで、その方々の生き方、考え方に感動することができ、私達にとっては共感できる力を試される看護の究極な形と感じています。幸い感性の豊かな看護師が集まり、ケース報告では、何がその方にとって、より良い看護になるのかの意見を出し合っています。

在院日数の短縮がすすみ、在宅が治療の継続や治療の終了の場となった現状では、看看連携が重要だと感じ、そのためには、病院側が退院に際し、在宅で可能な医療を理解して頂けるよう関わり、退院当



日からの生活がスムーズに行えるよう入院中から関わること。

また、私達が在宅の受け皿としての役割を意識し、今すべきこと、今できることの優先順位をつけることができる力量を持ち、主治医やケアマネ、保健師などの行政やインフォーマルサービスと協力と連携をもって、良き伴走者となること。利用者や介護者が不安なく療養できる環境作り、それを足並み揃え、同じ方に向かっていけるよう最大限の努力をしています。

次は「訪問看護ステーションいわた」さんです。



浜松医療センター 医療連携・患者支援センターの紹介

医療連携・患者支援センター長
医療連携室長
総合相談支援室長

二 橋 静 子
神 谷 純 子
佐 原 千恵子

「安全・安心な、地域に信頼される病院」を基本理念としている当院は浜松市制60周年記念事業として1973年4月に開設しました。前身にはオープンシステムを取り入れた浜松市医師会中央病院があり、開院時からこのシステムを継承し、全床をオープンシステムで運営しています。地域の医療機関と高額医療機器、設備および病床は共同で使用するという考え方や歴史的な経緯からも医療連携の推進には力を注いでいます。さらに2001年2月には地域医療支援病院に承認され、地域の医療機関と役割分担し、地域の皆様方に効率的医療を提供することを方針としています。医療連携室は1997年4月に設置され、その後、業務整理や組織整備を重ね2008年4月医療連携・患者支援センターとして独立しました。

「医療連携室」

地域の医療機関と当院との医療連携を推進し、紹介患者が安心して診療や検査を受けられるように円滑な連携を行うための窓口業務を担っています。事務職7名で構成され、主な業務は①紹介患者の予約業務、②緊急患者受入調整、③受診報告（報告書管理）、④紹介患者の入院・退院報告、⑤他医療機関と院内各部署との調整、⑥地域連携パス参画業務等です。医療連携室は歴史も長く、事務職の対応で取り組んでいますが、昨今の医療は多種多様になってきているため専門的なアセスメントを行うスタッフを配置し、強化を図る必要性を感じています。また、市内急性期病院を中心に「地域医療連携連絡会」を立ち上げ、垣根を越えた「顔」の見える連携をモットーに業務担当者の情報交換の会を定期的に開催しています。

23年度業務数

①新来患者予約	13,625件
②緊急受入調整	3,451件
③報告書管理	22,409件
④入院患者の報告	22,137件
⑤他医療機関との調整	2,536件
⑥地域連携パス	201件

「患者支援センター」は「総合相談支援室」と「医療相談室」から構成されています。患者や家族の皆



さんの利便性を考慮して2010年5月に1階の玄関横に移設し、利用者が気軽にドアをたたくことができる支援センターを目指しています。

「総合相談支援室」

看護師3名で退院調整、セカンドオピニオンを含めた病気の相談等にお応えしています。当院での急性期医療を受けた患者が退院後も安心して在宅療養に移行できるように院内各部署との調整、在宅医、ケアマネジャーおよび訪問看護ステーション等との連携を図っています。患者さんを囲む関係者の皆さんと合同で行う退院前カンファレンスでは生活者の視点から助言をいただき、切れ目のないケアが継続できます。病院から在宅への移行がスムーズとなり、患者やご家族のみならず私たちにとっても大きな支えとなっています。病棟での退院調整の役割は何か、総合相談支援室の看護師にはどのようなケースを依頼するのかなど、院内においても調整すべき課題は多くありますが、総合相談支援室を利用することで病棟看護師の負担軽減と患者の安心度が高まるのではないかと考えています。また、「地域がん診療連





「提携点病院」として、「がん連携パス」にも積極的にに関わり、地域診療所との連携の必要性についての相談、推進にも対応しています。

「医療相談室」

メディカル・ソーシャルワーカー（MSW）4名と事務員1名で構成し、患者への社会的援助、公的制度の活用や後方施設への転院の業務を中心に行っています。患者が抱える社会的背景が複雑化していますので、MSWの介入、援助は入院時から要求されるようになってきました。このため、MSWが病棟カンファレンスに参加し、患者情報を適時収集し早期の援助を行うよう心掛けています。後方医療機関へのスムーズな転院は平均在院日数の短縮にもつながり、病院の運営にも貢献できると思います。

本年4月の診療報酬改定により、「患者サポート体制加算」が算定できることとなりました。病院内における退院調整看護師とMSWの役割が確立し始めたとともに、現在の社会的背景により果たすべき業務も増えていると感じています。医療の機能分担を推進し、患者や家族の皆さんが満足・安心して当院を退院できる支援体制を一層充実させていきたいと思っています。



23年度業務数（相談件数）

内 容	が 人 診療相談	総合相談	計
看 護 相 談	535件	261件	796件
退 院 調 整	1,392件	5,051件	6,443件
セカンドオピニオン	30件	39件	69件
医療・福祉相談	1,692件	7,723件	9,415件
そ の 他		132件	132件
計	3,649件	13,206件	16,855件

訪問看護師就業セミナー実施報告

このセミナーは訪問看護支援事業として、訪問看護師確保のために静岡県訪問看護ステーション協議会が取り組んでいる事業で、今年で3年目になります。今年の参加者は20名（延べ58名）と昨年に比べ少ない人数でした。県民だよりや市町の広報紙にも掲載して頂いたり、ハローワークやナースセンター等にも設置して頂きましたが、残念ながら思ったようには参加者が増えませんでした。

これまで東部・中部・西部の各地区で平日と土曜日にセミナーを開催していましたが、今年は昨年の実績から土曜日は中部地区のみの開催としました。土曜日は県内1カ所、中部で開催することにしましたが、東部や西部の地区の方への案内が不十分だったと反省しています。

参加者は退職して間もない人から、5年程ブランクのある人、現在病院等に勤務している人と様々でした。

就業セミナーへの参加の動機は、「以前より訪問看護に興味があったので参加」が最も多く、「訪問看護や訪問看護の現状を知りたい」「自分にも何かできることがあるか探したかった」等でした。

内容については、訪問看護入門や訪問看護師の役割は全員が理解でき、訪問看護へ再就職した看護師

の体験談も全員が参考になったと回答しています。「育児をしながらの勤務時間の調整ができること、在宅経験がなくても訪問看護を楽しめることなど、不安だったことが解消された」「病院と違う点や実際の訪問の状態など参考になった」「訪問看護は人生経験も必要なイメージがあったが、とりあえず踏み出してみてもよいかなと思えた」という声が聞かれました。

平成24年12月10日現在、就業が確定しているのは5人です。その他の人の中には病院に就業が決まった人、勤務先の退職が難しい人やブランクがあり中々踏み出せない人もいます。また、今はまだ訪問看護ステーションへの就業に繋がっていませんが、協議会で開催している研修に参加している人もいます。

就業に繋がっていない人も、「今日は参加できて良かった。またセミナーや研修があれば参加したい」「色々な話が聞けてとてもよかった。皆さまの思いを聞けてやる気が出てきた」というように訪問看護への関心が高くなっていますので、いずれは訪問看護への就業へ繋がることを期待しています。皆さまのご協力に感謝致します。

（事務局 鈴木）



＝ラジオ出演のお知らせ＝

篠原副会長と聖隷訪問看護ステーション千本の櫻井所長が下記ラジオ番組に出演します。

SBSラジオ 番組名「サンデークリニック 2時間スペシャル」

放送予定日 平成25年1月27日（日）14：00～

テーマは「看取り」。在宅医療に取り組む先生方との座談会の模様が放送されます。

～講演会・研修会のお知らせ～

東部支部研修 市民公開講座 基調講演「看取りを支えるターミナルケア」

講 師 桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢純一郎先生

日 時 平成25年2月9日（土）13：30～16：30

会 場 沼津市立図書館（沼津市三枚橋町9－1）

参 加 費 無料

家族、在宅医、ケアマネジャー、専門病院在宅支援室など様々な立場のパネリストを迎え、パネルディスカッションも行います。

秋山正子氏 講演会

「最期まで自宅で過ごす～自分らしい暮らしをあきらめない～」

講 師 白十字訪問看護ステーション統括所長 秋山正子氏

日 時 平成25年2月23日（土）13：30～15：30

会 場 静岡県立大学短期大学部講堂（静岡市駿河区小鹿2丁目2－1）

応募締切 平成25年1月26日（土）

募集定員 50名

受 講 料 無料

中部支部研修「災害時における訪問看護師の役割」

講 師 宮城県大崎市 訪問看護ステーションあゆみ 伊藤久美子氏

日 時 平成25年3月2日（土）13：30～15：30

会 場 男女共同参画センター あざれあ 第3会議室

（静岡県静岡市駿河区馬淵1丁目17－1）

東日本大震災を教訓に、南海トラフ大地震を想定し、わたしたち訪問看護師が実際どのように行動し、通常はどのような対策をとっていくべきかを考えます。



シェイクハンドNo.37

2013年1月発行

発行所 静岡県訪問看護ステーション協議会

静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13

Tel 054-275-3339

Fax 054-275-3338

e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 上野 桂子

編集者 石井 由美（訪問看護ステーションなかいず）東部

竹澤まゆ美（訪問看護ステーション 萩）中部

赤堀奈緒子（訪問看護ステーション掛川）西部